

公益財団法人京都市芸術文化協会

第1 法人の概要

1 代表者

理事長 山極壽一

2 所在地

京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2 京都芸術センター内

3 電話番号

075-213-1003

4 ホームページアドレス

<https://www.geibunkyo.jp>

5 設立年月日

昭和 56 年 9 月 30 日

6 基本財産

50,000 千円（うち本市出えん金 15,000 千円、出えん率 30.0%）

7 事業目的

芸術文化に関する調査研究を行い、芸術文化の分野における創造的活動を助成し、市民文化の普及・向上を図るための各種文化事業を実施し、もって京都市における芸術文化の発展に寄与することを目的とし、あわせて国際文化交流の促進に努めるものとする。

8 業務内容

- (1) 芸術文化に関する調査研究及び情報の提供
- (2) 各種芸術文化事業の実施及び奨励
- (3) 芸術文化に関する教育及び普及
- (4) 芸術家等の育成及び顕彰
- (5) 芸術文化活動拠点の運営
- (6) 芸術文化に関する国内外との交流
- (7) その他芸術文化の振興を達成するために必要な事業

9 所管部局

文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課(TEL075-222-3119)

10 役員名等

(1) 理事長

山極壽一

(2) 副理事長

村山明

(3) 専務理事

松本守弘（文化市民局文化芸術都市推進室担当部長）

(4) 業務執行理事

建畠哲

(5) 理事

石原完二、井尻荷葉、大木富志、茂山あきら、田中誠二、堂本東邨、畑正高、平賀徹也（文化市民局文化芸術都市推進室長）、松尾恵、松本司、森川佳昭

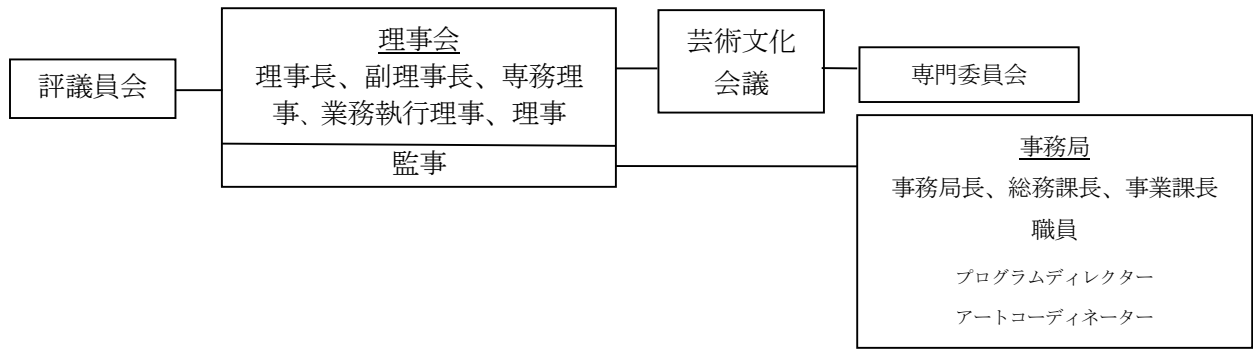
(6) 監事

中路健一、牧澤憲（文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課事業推進担当課長）

11 職員数

常勤職員数 17 名（うち本市派遣職員 2 人）、非常勤職員数 12 名

12 組織機構



第2 目標及び実績

1 業務面

(1) 目標及び実績

目標1 「市民等が文化芸術に触れる機会の確保」	
令和5年度の目標	文化庁移転、京都市立芸術大学の移転を控え、移転を契機とした事業や集客が見込めるイベントの実施、WEBによる情報発信の強化などを通じ、市民等が文化芸術に触れる機会の更なる充実と協会の認知度向上を図り、「第2期京都文化芸術都市創生計画（平成29年3月策定）」の内容に沿った取組を行っていく。 具体的には、夏休み期間に幅広い芸術文化分野での子ども向けの講座を実施するほか、京都芸術センターに設置したピアノによる市民向けコンサートを新たに実施するなど、子どもから高齢者まで楽しみやすい事業の企画などを通じて来館者を増やし、市民に開かれた施設を目指す。
令和5年度の取組結果 (※)	
令和6年度の目標	「第2期京都文化芸術都市創生計画（平成29年3月策定）」の内容に沿った取組を行うため、京都芸術センターのホームページリニューアルを契機に、より市民・利用者の方々に開かれた施設として、積極的に情報を発信し、市民等が文化芸術に触れる機会の更なる充実と協会の認知度向上を図る。既存の観客や使用者のみならず新たな観客や使用者を開拓するため、広報を強化し、より多くの市民が京都芸術センターを訪れる機会を増やすとともに、京都市の文化施設としての社会的評価や認知度の更なる向上に努める。 具体的には、広報の目的やターゲットを明確にしたうえで、対象に応じた適切な媒体（インターネット、SNS等）を活用して効果的、計画的な広報を行う。

指標	事業参加者数（芸文協自主・受託事業、芸術センター事業）（単位：人）							
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
			33,530	57,900	43,904	57,900		57,900

指標	WEB サイトアクセス件数（芸文協、芸術センター、KYOTO ART BOX、AIR_J） (単位：件)							
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
		726,227	327,600	865,086	866,000		959,000	

目標2 「京都芸術センターにおける若手芸術家等の育成」	
令和5年度の目標	<p>基幹事業である制作支援事業として、①制作室の無償提供では使用者の拡充に努め創作活動を支援すると共に、②KIPPU（ロームシアター京都と連携した若手芸術家の育成支援プログラム）では本格的な舞台制作を後押しする。</p> <p>また、Co-program（公演・展覧会・調査研究等の公募事業）では若手から中堅の芸術家・団体を対象に、創作から発表までを幅広く支援する。その他の自主事業（ギャラリー事業等）では若手芸術家を積極的に起用し、活躍の場を提供する。</p>
令和5年度の取組結果 (※)	
令和6年度の目標	<p>基幹事業である制作支援事業について、若手やさらなる発展を臨むアーティスト等に特に寄与できるよう、制作室の募集要項を精査し更新する。ステップアップを図る層を対象としたCo-program（公募採択による共同主催事業）、本格的な劇場での制作を支援する若手育成プログラムのKIPPU（ロームシアター京都との共同事業）を継続するほか、制作の場において必要な知識を共有するアートマネジメント講座を開催する。また、ギャラリー事業等で若手芸術家や、意欲的な取り組みを積極的に紹介していく。</p>

指標	制作室利用者及び芸術センター事業に起用した若手アーティスト等による、文化芸術に係る主要な賞の受賞 (単位：人)							
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
		26	15	6	15		15	

(2) 事業実績（令和4年度）

※・新型コロナウイルス感染症の影響により中止・延期した事業

ア 自主事業

- (ア) 芸術文化に関する調査研究及び情報の提供
 - a 文化誌「藝文京」の発行
 - b 協会ウェブサイトの運営
- (イ) 各種芸術文化事業の実施及び奨励
 - a 華道京展（共同主催）
 - b 各種芸術文化事業の奨励（後援・共催）
- (ウ) 芸術文化に関する教育及び普及
 - a 藝文京芸術教室

- (エ) 芸術家等の育成及び顕彰
 - a 京都いけばなプレゼンテーション
 - b 京都ビッグ・バンド・フェスティバル※
 - c 芸術家等の顕彰（京都市芸術文化協会賞・新人賞）
- (オ) その他会員関連活動
 - a 総会・懇親会
 - b 協会の魅力発信事業（広報）
 - c 藝文京サロン

イ 受託事業

- (ア) 市民狂言会
- (イ) 子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出
 - a 文化芸術授業（ようこそアーティスト）
 - b 伝統公演授業（ようこそ和の空間）
 - c 京の伝統文化体験事業「放課後も！ようこそアーティスト」
 - d 京の伝統文化体験事業「親子でも！ようこそ和の空間」
 - e 教文伝統芸能シリーズ「能楽なう」公演
- (ウ) アーティスト・イン・レジデンス連携拠点事業
- (エ) 京都市文化芸術総合相談窓口（KACCO）の運営
- (オ) 京都市助成金等内定者資金融資制度（融資窓口業務）
- (カ) 京都市自治記念式典オープニングセレモニー
- (キ) 芸術家と企業のネットワーク形成

ウ 芸術文化活動拠点施設運営事業（京都芸術センター管理運営事業）

【活動センター機能】

- (ア) 伝統的芸術の継承・創造事業
 - a 明倫茶会
 - b 伝統芸能文化創生プロジェクト
- (イ) 芸術家・芸術関係者育成事業
 - a 京都国際ダンスワークショップフェスティバル
 - b トラディショナル・シアター・トレーニング
 - c KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2022
 - d FOCUS 展#4 伊東宣明「時は戻らない」展
 - e 企画展「國盛麻衣佳・Oelectronica『記憶への手つき Handshake with Memory』」
 - f 研修事業「舞台芸術と『性的表現』について考えるレクチャー・ワークショップ」
- (ウ) 先駆的・実験的事業
 - a ニュイ・ブランシュ KYOTO
- (エ) 制作・発表支援事業
 - a 制作支援事業（制作室使用者募集）
 - b Co-program
 - c U35 創造支援プログラム事業「KIPPU」

【情報センター機能】

- (ア) 芸術文化情報の収集・発信事業
 - a 図書室の運営
 - b 情報コーナーの運営
 - c 京都芸術センター・メールニュースの発行
 - d 京都芸術センターウェブサイト、SNS による発信

- e 京都文化芸術総合オフィシャルサイト（KYOTO ART BOX）の運営
- (イ) 教育普及事業
 - a 鑑賞支援プログラム 「拝啓 京都芸術センターへまだ来たことのない貴方へ」
 - b 視察・見学の受入
- 【交流センター機能】
- (ア) 国際交流事業
 - a アーティスト・イン・レジデンス
- (イ) 市民及び芸術家相互の交流事業
 - a 明倫ワークショップ・STUDIO OPEN DAY
 - b 明倫レコード倶楽部
 - c 『疱瘡譚』上映会＋トーク《異漬け！！》
- (ウ) 地域・学術・産業との連携事業
 - a ボランティア・スタッフ
 - b サポーター（友の会・協賛会）
 - c 地域との連携事業
- (エ) ネットワーキング
 - a 京都文化芸術コア・ネットワークの運営
 - b パートナーシップ/ネットワーク

2 財務面

(1) 目標及び実績

目標 1 「収支相償経営の継続」	
令和5年度の目標	公益法人として、健全な経営を行う必要があると同時に、収支相償の経営も求められているため、実質的な当期経常増減額がマイナスにならないよう留意しつつ、インターネットやSNS等を活用した広報活動による印刷費・郵送費等経費の節減、計画的な積立金の確保を含む予算執行管理の徹底等により、引き続き安定的な経営を目指す。
令和5年度の取組結果 (※)	
令和6年度の目標	公益法人として、健全な経営を行う必要があると同時に、収支相償の経営も求められているため、実質的な当期経常増減額がマイナスにならないよう留意しつつ、引き続き、インターネットやSNS等を活用した広報活動による印刷費・郵送費等経費の節減、LED化の推進や環境に配慮した空調の温度設定などの節電の徹底による電力等の使用量・経費の削減の取組を行う。また、計画的な予算執行と経費の一層効果的な執行に努め、引き続き財務基盤の更なる安定化を図る。

指標	当期経常増減額							
	(単位：千円)							
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
			6,555	500	20,200	500		0

主要財務数値								(単位：千円)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		
	予算	実績	予算	実績	予算	実績 (※)	予算	実績 (※)	
経常収益	272,037	259,099	234,249	245,076	244,840		246,676		
経常費用	272,037	252,544	233,749	224,875	244,340		246,676		
当期経常増減額	0	6,555	500	20,200	500		0		
当期正味財産増減額	0	6,555	0	20,200	0		0		
資産合計	-	250,710	-	242,024	-		-		
負債合計	-	129,614	-	100,728	-		-		
正味財産	-	121,095	-	141,296	-		-		
うち累積損益額	-	71,095	-	91,296	-		-		

目標2 「自主財源の獲得に向けた取り組み強化」	
令和5年度の目標	<p>京都芸術センターの活動を周知し、活動趣旨に賛同いただくファンを増やすとともに、企業等が当財団に対して寄附を行う際に、税制上の優遇措置が受けられることを丁寧に説明し、特定寄附金の獲得に努める。また、新たにクレジットカードを利用したオンラインでの寄附受納のシステムを導入したところであり、今後、寄付をされる事業者の利便性の向上、継続的な特定寄附金の獲得に取組み、まずは目標設定の1,000千円の収入確保を目指す。さらに、自主事業として、施設をロケーション撮影場所として提供する収益事業の実施に向けた準備に着手する等、補助金に代わる新たな自主財源の確保にも努める。</p>
令和5年度の取組結果(※)	
令和6年度の目標	<p>事業補助金に係る外郭団体総合調整会議の評価を踏まえ、寄附の獲得や新たな収益事業の検討といった自主財源の確保に向けた取組を引き続き進める他、これまでの取組結果を検証し、自律した経営に向けた今後の方策を確立する。</p> <p>自主財源の確保に向けた具体的な取組としては、既存の会員制度(友の会・協賛会)を統合して「KACサポーター会(仮称)」とし、会員特典の充実等により入会しやすく利用しやすい制度とする。また、活動の趣旨に賛同していただくため、税制上の優遇措置など入会により受けられるメリットを説明し、多様な企業等から支援が得られるよう広報活動等を強化する。さらに、自主事業として昨年度から実施に向けて準備を進めてきた収益事業の実施に着手する。</p>

指標	自主財源の収入額(外部からの寄附獲得、ロケ支援など)						(単位：千円)	
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
			470	1,000	459	1,000		1,300

(参考) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		R3 決算	R4 決算	R5 決算 (※)	R6 予算
委託料	京都芸術センター運営〔指定管理(公募)〕	129,178	129,178		127,228
	市民狂言会	1,600	1,600		1,600
	京都市助成金等内定者資金融資制度	395	395		395
	文化芸術事業(ようこそアーティスト)	18,736	17,300		17,300
	アーティスト・イン・レジデンス連携拠点事業	2,200	1,600		1,600
	伝統公演授業(ようこそ和の空間)	3,256	6,800		6,750
	京都市文化芸術総合相談窓口	25,000	17,000		16,000
	芸術家と企業のネットワーク形成	-	8,000		10,000
補助金	京都市芸術文化協会事業補助金	24,824	20,000		20,000
貸付金	京都市助成金等内定者資金融資制度に係る貸付金	40,000	40,000		40,000
その他	伝統芸能文化創生プロジェクト負担金	14,300	9,800		9,300

3 組織面

(1) 目標及び実績

目標1 「業務管理・執行体制の強化と安定化」	
令和5年度の 目標	組織運営を持続可能なものとし、適切に事業を推進するため、補助金・助成金の獲得や企業との連携事業等の実施による財務基盤の強化に努める。また、受託事業の規模や内容の変更に応じて、外部委託等を活用するなど、業務に見合った職員の配置・業務分担の見直しを適宜行いつつ、適正な金額での事業の受託に取り組むことで、業務の効率化と組織の安定化を進める。年間を通じて計画的な研修を行うことで、個人情報保護をはじめとするコンプライアンスを順守する組織体制の構築に継続して取り組み、専門的能力を有する人材の育成および協会の自主性・自立性をさらに高める。
令和5年度の 取組結果 (※)	
令和6年度の 目標	組織運営を持続可能なものとし、適切に事業を推進するため、補助金・助成金の獲得や企業との連携事業等の実施による財務基盤の強化に引き続き努める。また、業務効率化のため、新たに勤怠管理システムを導入したところであり、給与支払いに係る処理時間の短縮を図るなど、引き続き業務の効率の向上を図りつつ、職員の配置・業務分担の見直しを適宜行い、組織の安定化を進める。加えて、年間を通じて計画的な研修を行うことで、個人情報保護をはじめとするコンプライアンスを順守する組織体制の構築に継続して取り組むことで、専門的能力を有する人材の育成を図り、協会の自主性・自立性をさらに高める。

指標	業務管理・執行体制の強化（人材育成のための研修等の実施）（単位：回）							
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
		再点検、 見直し (9)	再点検、 見直し (5)	再点検、 見直し (6)	再点検、 見直し (6)			再点検、 見直し (6)

目標2 「京都市からの派遣職員の削減の検討」	
令和5年度の目標	<p>中長期的な協会の運営を見据えながら、事業の確実な進捗を図りつつ、より効率的な組織の在り方や必要な人員体制、協会独自の人材育成等について引き続き検証を進める。年間を通じて計画的な研修を行うことで、個人情報保護をはじめとするコンプライアンスを順守する組織体制の構築に継続して取り組み、組織・事業の管理運営等、専門的能力を有する人材育成を行う。また、現在市派遣職員が担っている業務を、将来的に財団のプロパー職員が担うことができるよう、法人運営に必要な知識・技能の習得を図り、関連する外部研修を積極的に受講させる等、財団運営の更なる効率化に取り組む。本市派遣職員へ依存しない体制を整え、協会の自主性・自立性をさらに高める。</p>
令和5年度の取組結果 (※)	
令和6年度の目標	<p>市からの派遣職員の削減について、検討期間が長期化していることを踏まえ、検討結果を今後の経営に反映するための中長期的な計画を速やかに策定するとともに、安定的な協会の運営のための協会の中核として法人運営を担うことのできる人材の育成を図る。</p> <p>具体的には、令和6年度に新規にプロパー職員を採用し、法人運営に必要な知識・技能の習得を図り、関連する外部研修を積極的に受講させるなどにより、組織・事業の管理運営等、専門的能力を有する人材を育成することで、過度に市派遣職員に依存しない体制を整え、前述の中長期計画に基づき、自主的・自律的な運営体制の構築を目指す。</p>

指標	派遣職員数削減に向けた検討（法人運営に関する外部研修等の実施）（単位：回）							
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
		再点検、 見直し (0)	本市派遣 職員へ依 存しない 体制の検 討 (0)	本市派遣 職員へ依 存しない 体制の検 討 (0)	本市派遣職 員へ依存し ない体制の 検討 (3)			本市派遣職 員へ依存し ない体制の 検討 (3)

第3 令和5年度の経営評価（令和4年度の経営状況に対する評価）

1 所管局による評価

財務面	<p>財務面では、燃料費等高騰の影響により光熱水費が増加したものの、役員報酬等の人件費の減少や、給与負担減など支出の減少額が大きかったことにより、経常増減額は20,200千円となった。経常増減額分については、収支相償の原則に則り、「協会設立50周年事業」及び「芸術文化活動拠点の基盤整備費用」として積み立てるとともに、令和5年度の予定事業において計画的に執行する予定としており、持続可能な組織運営と事業推進のため、公益財団法人として適正な財務管理が行われている。</p> <p>令和5年度は、新たに導入したオンラインでの寄附受納のシステムを活用し、寄付者の利便性の向上及び継続的な特定寄附金の獲得に取り組むほか、積極的な補助金・助成金の確保、効果的な自主事業の実施などによる収入源の多様化を図ることで、安定的な財務基盤の確立に取り組み、市の補助金に頼らない、自立した経営に努められたい。</p>
事業面	<p>新型コロナウイルス感染症対策を適切に講じつつ様々な事業を実施し、特に芸術文化に触れる機会が少ない市民に向けた文化芸術の新たな魅力を発見する取組により、幅広い層への理解促進と地域のにぎわいの創出に努めたことは評価できる。</p> <p>今後、文化庁移転、京都市立芸術大学の移転を契機とし、市民等が文化芸術に触れる機会の更なる充実と、京都の文化芸術の中核を担う存在として、協会及び京都芸術センターの認知度向上を図ることが求められる。併せて、令和3年度に協会設立40周年として策定・公表された中期ビジョンの実現に向け、若手芸術家等の育成に努めるとともに、文化芸術によるまちづくりを推進することを期待する。</p>

2 外郭団体総合調整会議による評価

<p>コロナの影響がある中でも、芸術・文化の普及振興のための藝文京サロンの立上げやメーリングニュースを通じた文化芸術情報の発信等、着実に事業を推進している点は評価できる。今後は、各種事業に取り組まれた結果、文化芸術の発展にどのような効果があったのか、アウトカム指標を設定して見える化するなど、市民に分かりやすく説明いただきたい。</p> <p>一方、財務面では、20百万円の黒字を確保しているが、これは市から団体事業への補助金(20百万円)を交付していることも要因として大きい。黒字を令和5年度以後に実施する周年事業等のために積み立てているが、単に内部留保に留まらぬよう、文化芸術に触れる機会の創出など、目に見えるような形で市民に還元いただきたい。また、市からの派遣職員の削減について検討期間が長期化していることから、早期に引上げに向けた取組を進めていただきたい。</p> <p>なお、京都市では外郭団体への事業補助金は令和6年度までのサンセット事業とされていることから、自律した経営に向けた取組を確実に推進していただきたい。</p>
